

科目名	経営戦略論		
開講学期	1年次秋学期、2年次春学期		
教員氏名（カナ）	高柿 健（タカガキ ケン）		
単位数	2		
授業実施方法	対面授業		
教育の実務経験の有無	有	ノートPCの利用	教員に指示されたときに持参すること
実務経験	中小企業診断士として中小企業の経営コンサルタント業務、自治体の地域創生事業のアドバイザー業務等		
キーワード	経営管理、経営戦略論、組織論、データサイエンス、データドリブン経営、デジタルトランスフォーメーション	アクティブラーニングの実施	無
授業の目的と概要	本講義の目的は、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーにある基本科目「経営とデータサイエンス」等で学んだ「社会・産業・企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出す能力」を起点に、「データサイエンスに関する汎用的な知識とスキル」を活用し、本研究科の中心的テーマである「経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出する能力」を身に付けることである。基本科目では、経営戦略の基本的・伝統的な理論に加え、多くの事例を活用し、近時の産業・企業等がかかえる経営上の課題を具体的に理解してきた。本講義では、特に、「データサイエンスから導出される知見を活用して実践的で効果的な方策」を見出している事例等を、経営戦略の基本的なフレームワークの順序で詳細に分析する。その上で、学生には関心を有する特定のテーマについて、具体的なデータを活用し、問題解決策導出過程を、ミニ研究をプレゼン（事例発表研究会）するという演習方式で講義を進めていく。また、経営戦略が直面する固有の課題だが、経営全体にデータを活用することにより、経営戦略・競争戦略が「非連続で」「劇的な」変化をもたらすとの可能性が指摘されて久しい。こういった、データドリブン経営、デジタルトランスフォーメーション（DX）という概念が、経営にどのような影響を及ぼすのかといったことについても触れる。それらを学ぶことで、学生は本研究科の修了後、新しいデジタル社会で、自身がどのような社会的な使命を帯び、役割・位置づけを得ていくかということを理解することが出来るものとする。（無論、デジタル社会における、データの持つ倫理性等の新しい課題についても十分な理解と相応しい行動が求められることとなる）		
到達目標	1	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を理解することができる	
	A+	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を理解することが完璧にできる	
	A	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を理解することができる	
	B	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を理解することがある程度はできる	
	C	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を理解することが余りできない	
	F	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を理解することが全くできない	
	2	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出することができる	
	A+	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出することが完璧にできる	
	A	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出することができる	
	B	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出することがある程度はできる	
	C	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出することが余りできない	
	F	データを活用した経営上のあるいは社会的な課題の解決策を導出することが全くできない	
	3	導出した解決策を適切にプレゼンテーションをすることができる	
	A+	導出した解決策を適切にプレゼンテーションをすることが完璧にできる	
	A	導出した解決策を適切にプレゼンテーションをすることができる	
	B	導出した解決策を適切にプレゼンテーションをすることがある程度はできる	
	C	導出した解決策を適切にプレゼンテーションをすることが余りできない	
	F	導出した解決策を適切にプレゼンテーションをすることが全くできない	
	4		
	A+		
	A		
	B		
	C		
	F		
	5		

	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
履修上の注意		講義をよく聴き、不明な点は遠慮なく質問すること 講義へ積極的に参加し、ディスカッション全体へ積極的に貢献すること 講義内容は、学生の理解度等に応じて、変更することがある 事例研究等は最も相応しいものを探索することから取り上げる内容が変化することがある		
教科書・教材				
基本方針	必須の教科書に加え、適宜講義内で重要な文献について紹介する			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	よくわかる経営管理	ミネルヴァ書房	2011年11月	
推薦	経営戦略入門	日本経済新聞出版	2011年5月	
参考文献	講義内で適宜紹介する			
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				
ディプロマポリシー（大分類）				対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力			○
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル			
D3	(1) の能力を起点に (2) を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル			◎
D4	(3) で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル			◎
D5	データ社会にあって (1) ～ (4) の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル			◎
成績評価方法		レポート（課題）、講義への貢献度、事例研究発表会等を総合的に評価する レポート30%、講義への貢献度40%、事例研究発表会30%		
試験・レポート等に対するフィードバック		講義内でポイントを示し解説する		
授業時間外の事前事後学修				
	内容			学習時間
事前学習	課題をまとめる			2.5 h
事後学修	講義内容ならびに課題のフィードバックを踏まえ改めて自身でまとめることで次回の講義の事前学習にもなる			2.5 h
授業計画				
1	経営戦略とデータサイエンス（イントロ）			
2	経営戦略とデータサイエンス（事例研究） ーデジタルトランスフォーメーション（DX）とデータドリブン経営が競争戦略に与える影響について考える			
3	事業戦略とデータサイエンス①（事例研究） ービジネスモデル転換、ビックデータ活用と収益性（銀行・証券等）			

4	事業戦略とデータサイエンス②（事例研究） －在庫管理等サプライチェーンの最適化（総合商社等）
5	企業戦略とデータサイエンス①（事例研究） －中期経営戦略や事業計画の策定（顧客及び市場調査）等
6	企業戦略とデータサイエンス②（事例研究） －製品・サービスの企画・開発・改善、需要予測等
7	経営戦略と企業経理財務（コーポレートファイナンス）①（事例研究） －企業価値向上に向けた財務計画策定に向けたデータサイエンスの活用事例等
8	経営戦略と企業経理財務（コーポレートファイナンス）②（事例研究） －経営データ分析、財務諸表分析等へのデータサイエンス活用
9	事例研究発表会①
10	事例研究発表会②
11	マーケティングとデータサイエンス（事例研究） －Electric Commerceとビックデータ蓄積、顧客分析等
12	製品開発とデータサイエンス（事例研究） －新商品開発とDX（製薬等）
13	イノベーションとデータサイエンス（事例研究） －ものづくりとDX等
14	事例研究発表会③
SDGsとの関連性	
4.質の高い教育をみんなに 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に	